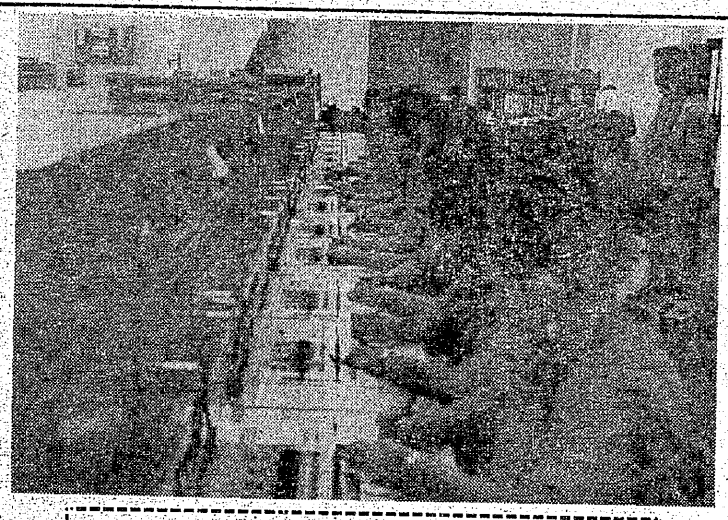
ここでも合理化攻撃が……

どこでも合理化攻撃が、はげしくなつてきました。電電公社では、電話交換手から生理休暇を剝奪するといつた、非道な攻撃が加えられています。まさに女であることを、否定するのと同じです。ここに紹介する一文は、全電通労組九州地方大会の席上、代議員の一人＝水本英子さんが報告した攻撃の実態で、その勇気にも感心させられますが、自分が経験した事実をつきつけて、合理化攻撃の非情さ、非人間性をバクロしている点私たちのCO問題と同じです。



うしろには監督がひかえて監視の目をくばり、1秒のヒマもない電話交換室

明日では遅過ぎる

女であることを否定された私

全電通労組　水本英子

水本さん

いいがかりとデッチあげ

公社は私に対して、生理休暇の乱用ということで減給一カ月十分の一という処分を出してきましたが、何が、生休の乱用なのでしょうか。

いくら問いつめても、公社はあきらかにしないのです。

私は四月十三日、家から五分とかからない、ほんの近所にお茶とその道具を買いに行っただけなのです。その帰り道、浅岡副課長とすれ違いました。その翌日、出勤するとすぐ呼びつけられ

『昨日、私と会いましたね。昨日の行動を話して下さい』

というのです。私はありのままを言いました。するとどうでしょう浅岡はいうのです。

『それだけではないでしょう。あんたは何時何分、大正町で仮装行列を見ていたじゃないですか。そのうえ、いったん帰ってから服を着がえて、また出ていったでしょうが!!』

というのです。

私の全然知らない、身に覚えのないことをたしかに見ていたといいはるのです。「直後顔をあわせていないから、あんたはわからないと思っているだろうが、私はちゃんとみていたのですよ」と、「白い服で、赤のチョッキに着がえて出た」ときめつけるのです。私はそんな服はもっていません。

大正町なんか通っていません。通っていない道でどうして私が仮装行列を見るでしょうか。そうですデッチ上げです。天地神明に誓って私は潔白です。

そんなデタラメがこの現代に許されていいものでしょうか!

それから連日、午前と午後の二回呼びつけられ、始末書を書けと強要されました。あげくの果ては局長室に連行され、局長・次長・課長・副課長の四人にとりかこまれて、代わるがわる責められる。その翌日もまた、局長室に連行されておどされる。まるでドロボーか人殺しでもしたかのように局長室まで連れていかれる惨めさと口惜しさ……。

私は決していいなりにはならない

気の弱い私にはそれは耐えがたいものでした。六十キロ以上もあった体重がいまでは五十キロを割るのです。皆からやせた、やせたといわれます。でも私は頑張りました。誰が書くものかと必死に歯をくいしばりました。始末書を書くことはやさしい。悪かったと一言書けばもう局長室に連れていかれて、いじめられることもない。係長から白い目で見られることもない。明日からはいままでのようにニコニコとあいさつもしてくれるだろう。が私は書けなかった。これは私一人の問題ではない。私が始末書を出せば生休の時は一歩も外に出られないという前例ができるのです。

私はたしかに、公社に労仂は提供しています。が、それと同時に妻であり、母親でもあるのです。生休を取ったからといって、じっと寝ていたら、子どもの面倒は一体誰が見るのでしょうか？　きつくとも、食事の仕度や、オムツの洗濯はしなければなりません。労仂は提供していても、私生活までしばる権利はないはずです。

その翌日、また課長に呼ばれました。これに署名、捺印せよ、というのです。署名したくなかったら印でもいい。そうまでいうのです。それは「供述書」と書かれていました。まるで犯罪人の扱いです。憤りに胸がはり裂けそうでした。印を押せと迫る課長の顔が、鬼か犬畜生に思え、八つ裂きにして屋上から投げすてたいとさえ思いました。

そうして二十二日、また局長室に連行されました。室内に入ると沢山の管理者がいて、局長が「辞令」なるものを読みあげました。事件発生からわずか八日で突然、処分が発令されたのです。何が生休の乱用なのかは明らかにしないままに。

何故公社は真相を調査しようとしないのか！

まったく処分のための処分。公社は、何が何でも処分を出したかったのです。皆のみせしめにしたかったのです。

これが日ごろ、公共性を口にする電々公社のやり方なのでしょうか！尾行し、デッチ上げ、あたかも祭を見るために外出したかのように上部に報告した管理者、自分の出世のためには、どんな卑劣なことでも平気でする管理者の本質というものを、いやというほど肌身に感じさせられました。公社はこんな非人間を、現場管理者として君臨させているのです。

公社よ恥を知れ！

こんな悪らつな人間は即刻解雇すべきだ！

圧迫のかずかず

私はそれ以来、課長に対し頭を下げません。点呼に一分遅れても課長席に呼びつけて皆に聞こえるように大声で文句をいうのです。

「あんたはいったい勤務時間を何と思っとるとね。三分も遅れたじゃないですか」が、私は絶対にあいさつしません。これが精一杯の抵抗なのです。

そんな私に転制を通じて、圧迫がひどくなりました。専属デザイナーならうれしいんですが、専属の転制がピッタリうしろに吸いついて、ちょっとでも手を休めるものなら、待ってましたとばかり凄い見幕でどなられるのです。

『なんぼやっとしとるね。応答しなさい』隣りの人が「私、びっくりしてふるえたんよ」といわれるほどなのです。立ち上がらないと届かないようなばしっこのランプにでも、応答せよと小突かれるのです。口惜しくて、口惜しくて眠れない日がつづきました。それなのに公社は、追いうちをかけるように夏期手当を減額して来たのです。まさにふんだり、けったりです。

一体、私が何をしたというのでしょうか。母として子どもの面倒を見ることが、一家の主婦として生活必需品を買ったことが、そんなにいけないことでしょうか。母として、妻として、いや女性として人間らしく生きたいと少しでも抵抗すれば、公社は権力をかさにきて徹底的にしめ上げるのです。

一人では弱い組合員に、全転制が集中攻撃をかけるのです。私たちが団結している時には、出しきらなかった処分も、一人一人がバラバラにされた現在、まず係長会議にはかり、そのバックアップがあってこそ、はじめて出してきたのです。私はこれから先、どうして生きていったらいいのでしょうか。頼りにしていた仲間たちも一人またひとり、公社の巧妙な攻撃の前に切り崩されていくのが現状です。

転場は監獄病院―明日では遅すぎる

いま転場では、サービス向上という美名のかげに病人が続出しています。それもみんな、二カ月、三カ月の長期にわたる内臓器官の障害なのです。腎臓炎、肝炎、疲れが重なって発病するのです。後方監督は厳しくされ、テープにも毎日取られ、自分自身で悪い所を指摘させる。その上、感じがよいから『お早ようございます。〇〇番です』といいなさい。まるで奴隷のような状態です。気の休ませる時はありません。

何とかしなければ、とグループ懇談会を開いても誰も何もいわないのです。誰が何といったか、どんなことをしゃべったかということが全部、上部に筒抜けで、うかつに何か言ったら、コワイ・にらまれる・告げ口される、とみんな用心しているのです。ひとたびにらまれれば、村八分のような悲惨な状態になってしまう。完全に孤立させられる。

ではどうしたら組合は強くなるのか。息をふき返せるのか。いまこそ強力な対策が必要なのです。明日では遅すぎるのです。

【編集部注―文中にあるグループ懇談会とは、公社の巧妙な合理化攻撃に対抗するために全電通労組北福岡支部が各転場に組織した小さな団結＝五人組です】

夫へ一言

夫へひとこと――といっても、昭和十八年に結婚して以来夫婦ゲンカこそ何回かやりましたけど、ほおっぺたひとつたたかれたおぼえはなし、またいまのあなたはひどく酒のむじゃなし……。あなたにとってはかけがえのない母であるばあちゃんが、半身不髄で寝ていなさるとはいえ、私は十分しあわせですし、いうことはないのですよ。

忘れられないことば

そうそう私たちに忘れられないことは、やっぱり企業整備反対・首切り反対でたたかった二十八年の、あの百十三日のたたかいですね。

会社が、しだいに強くなっていく三池労組に対して首切り攻撃をかけてきたのは、戦場での苦労からか、胸部疾患のため長い病院生活をつづけていたあなたがやっと退院して、家でぶらぶらしていたときでした。ですから私は内心、あなたがきっと、イの一番に首切りの対照にされるだろうことは覚悟していたのでした。それでもいよいよ、家に郵送されてきた首切り勧告状を見ると、やっぱり目先が真暗になったことをおぼえています。

ですから、それはもう寒くなった十一月のある日のことでしたけど、会社が首切りを撤回したことはないのです。だけど、海員とはいいながら、まだやっと十八才になったばかりの息子の直清の給料が、とても五十三才で勤続二十七年というのに、手取りで二万円足らずというあなたの給料よりはるかには、るかに高いとは……。ほら、今日その息子から、いつものように一万五千円送ってきましたよ。

あ、そうそう、おねがいといえば――ぜひあなたの転場の様子をもう少しくわしく話してほしい、と妻がまずひとつ心に結ばれることがなにより大切ですのでね。

苦しい職場の様子を もう少し話して

四山　松井きみ子さん（44）

やっぱりかわったあなた

それは当然でしたろうけど、あなたはたしかに、あの百十三日のたたかいを境に、ずい分かわりました。健康を回復して、転場に帰ると同時に、積極的な組合活動家になっていったあなた。三十五年の三池闘争のときはもう、転場分会の副分会長をやり、委員をやり支部委員会の議長の役をつとめるなど、立派にたたかい抜きました。その後もひきつづき委員をやったり、地域の役員をやったり……。ほんとに、とりたてていうことはないのです。だけど、海員

やっぱりかわったあなた

りの対照にされるだろうことは覚をいち早く知った近所の人が「奥さん、よかった、よかった。闘争は勝ったよ」と、私の家にかけんできて下さったときのうれしかったこと……。

ひとくち話

▼買いたくはないけれど、時代の流れには勝てんばい。とうとう車を買わされた。

はて、どんな車かな？　女房よ許せ……「火の車」だ。

×

▼小中学校の教育課程が改正された。それによって先生が拘束され、生徒に愛国心をもたせるのだそうな。

生徒があんまり拘束されたから非行化したのに、こんどは先生が非行化するんじゃないのかな？

（以上東庄労組の転場新聞の「団結」「てのひら」から）